

発見! 甲賀の自然

第16回 里山の秋の草花・リンドウ

～身近な甲賀の自然から、興味深い話題を紹介します～

秋が深まると、葉が枯れる植物もある一方、美しく鮮やかな青い花を咲かせる草花もあります。

リンドウといえば、生け花や鉢植えの花を想像する方が多いですが、本来は野生の草花です。リンドウは、湿地周辺の草地に生える植物で、甲賀市では、昔からの地形が残った棚田の、定期的に草刈りがされる土手に見られます。農地の整備が進み、どこにでも見られる植物では無くなりましたが、その気で探せば、まだ出会う機会の多い花です。

リンドウの花を観察すると、雨や曇りの日は花をねじるように閉じていて、晴れた日に開きます。また、花の奥にもぐって蜜を飲むのは、涼しい季節に活動的なマルハナバチの仲間です。丸い毛むくじゃらのハチが次々と花を訪れ、花にもぐる様子は面白いものです。

秋の清々しい日、美しいリンドウの花と出会う感動は格別です。しかし、野生のリンドウを採集するのは避

けましょう。庭の花壇に植えても、いずれは絶えてしまいます。美しいリンドウが、当たり前前の植物であるように、里山の草地の環境を守り、毎年その美しさに感動したいものです。子どもの森の里山でも、草刈を行って、リンドウの咲く草地を保全しています。



◀リンドウ

問い合わせ みなくち子どもの森自然館
☎ 63-6712 ☎ 63-0466

市史の44小徑

郷土のお城「再発見」

先日安土城考古博物館で開かれたお城のシンポジウムに出かけました。出席者はいずれも戦国時代のお城が地元であり、それを顕彰している自治会や活用グループの方ばかり。専門家の講演ではなかったのですが、これがないへん面白くまた深い感銘を受けました。

皆さんの活動のきっかけは、自分たちが子どもの頃から見慣れ、また遊びの場だった「城山」が大きな価値のあることを知ったこと、しかも姫路城や彦根城などと違い、それらは自分たちの地域の先祖から決して遠い人が築いたのではないという確信と親近感だということでした。

甲賀市域で現在確認されている城跡の数は180余り。中には豊臣氏や徳川氏が関わった城もありますが、その数や規模からすると、

私たちが市民の直接の先祖が築き、またその城主であったことは間違いないありません。戦国時代という日本史上の大激動期にあつて、城づくりを通して地域の管理運営に先祖たちがどうかかわったのか。

教科書からでは味わえない歴史の魅力が感じられる一日でした。



▲空から見た甲賀のお城 (山本氏屋敷・植城跡)

市内のお城を網羅した第7巻「甲賀の城」は12月刊行予定。現在予約受付中です。

【市史販売所】
〈水口〉T S U Y Aさんぽうどー・ハタヤ書店・山川書店・山田書店・水口歴史民俗資料館〈土山〉ウエノ・新名神土山サービスエリア案内所・道の駅あいの土山・土山歴史民俗資料館〈甲賀〉かふか生涯学習館〈甲南店〉W I N G甲南店・市史編さん室〈信楽〉大玉堂三川書店・信楽中央公民館・信楽伝統産業会館・陶芸の森信楽産業展示館・信楽高原鐵道信楽駅売店

問い合わせ

歴史文化財課 市史編さん室

甲南庁舎3階

☎ 086-88075

☎ 086-88216